



文蔵小通信



さいたま市立文蔵小学校

336-0025 さいたま市南区文蔵5-16-29

TEL 863-0721 FAX 836-1583



【文蔵小ホームページ】

2学期に向けて

校長 渡邊 勝利

今年の夏も、「猛暑日」「熱帯夜」が連日のように続き、酷暑そのものでした。そのような中、青少年育成文蔵地区会による地域巡回活動及び各家庭のご協力により、大きな事件や事故等がなく、無事に2学期を迎えることができました。心より感謝申し上げます。

さて、夏季休暇中ですが、文蔵っ子が活躍した出来事を2つ紹介します。

1つ目は、7月21日(日)「浦和まつり 南浦和会場音楽パレード」に参加した、金管バンド33名の児童です。厳しい暑さの中でしたが、「聖者の行進」「ジッパディードゥーダー」を演奏しました。沿道の大きな拍手や声援に包まれ、練習の成果を発揮できた素晴らしい演奏でした。演奏後の児童の感想からは、「楽しむことができた」「一生懸命できた」との感想が多く聞かれました。本日の演奏に至るまでには、連日に及ぶ厳しい練習、仲間との助け合い、そして保護者の皆様をはじめとする多くの方々からの励ましの言葉がありました。そのような経験を乗り越えたからこそ、子どもたちの笑顔があったのだと思います。そして、この経験を通して、一回り成長した姿を見ることができ、とても嬉しく思いました。2学期の運動会や音楽会等での更なる活躍を期待しています。



2つ目は、8月2日(金)の「さいたま市ストップいじめ！子どもサミット」です。市立小・中・高等・中等教育・特別支援学校の児童生徒代表、教職員、保護者、後援団体等、約700名が参加し、大宮国際中等教育学校で実施されました。子どもたちが、いじめ問題を主体的に考えるとともに、互いの学校の取組を知ること、「いじめをさせない、許さない」機運を醸成し、各学校の多様な取組を一層推進することをねらいとしたものです。グループ協議では、「ストップいじめ！とはどのような意味なのか」「ストップいじめ！が浸透している学校はどんな学校か」等を協議しました。子どもたちは真剣そのもので、「いじめがあったら自分から助けたい。見逃さない。」「意識するだけではなく、見本となるような行動をとりたい。」等、力強い意見を多く聞くことができました。私たち大人も、「いじめを起こさせない、見逃さない」学校づくりについて、改めて深く考える機会となりました。



2学期は、運動会や音楽会、遠足・社会科見学等の行事があり、大きく成長する時期です。そこで、始業式の校長講話で、次のような言葉を紹介しました。

『ハンマーでは錠前は開かない。その錠前に合った鍵でなら開く。』

インドの詩人、タゴール氏の言葉です。何を意味するのか、児童一人ひとりに考えてほしくて紹介しました。錠前は「相手の心」です。自分の想いを伝えるために、ハンマーを使ったらどうなるでしょうか。錠前は壊れてしまいます。つまり、相手の心は壊れてしまい、何も伝わりません。そんなときに必要なのが、錠前に合った鍵です。鍵は錠前を開けるために必要なこと、それは、「優しさや思いやりの心」です。友だちと仲良くする、問題を解決するには、優しさや思いやりの心が必要になります。力づくでハンマーを使っても解決しないということです。鍵は、どこにあるのでしょうか。それは、一人ひとりの心の中にあるものです。心の中にある優しくて思いやりのある鍵を使って、相手の錠前をそっと開ける。そんな風景を想い、想像しながら話してみました。

82日間に及ぶ2学期です。優しさいっぱいの文蔵小学校目指して、教職員一同、心を一つにしてお子様の教育にあたってまいります。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。